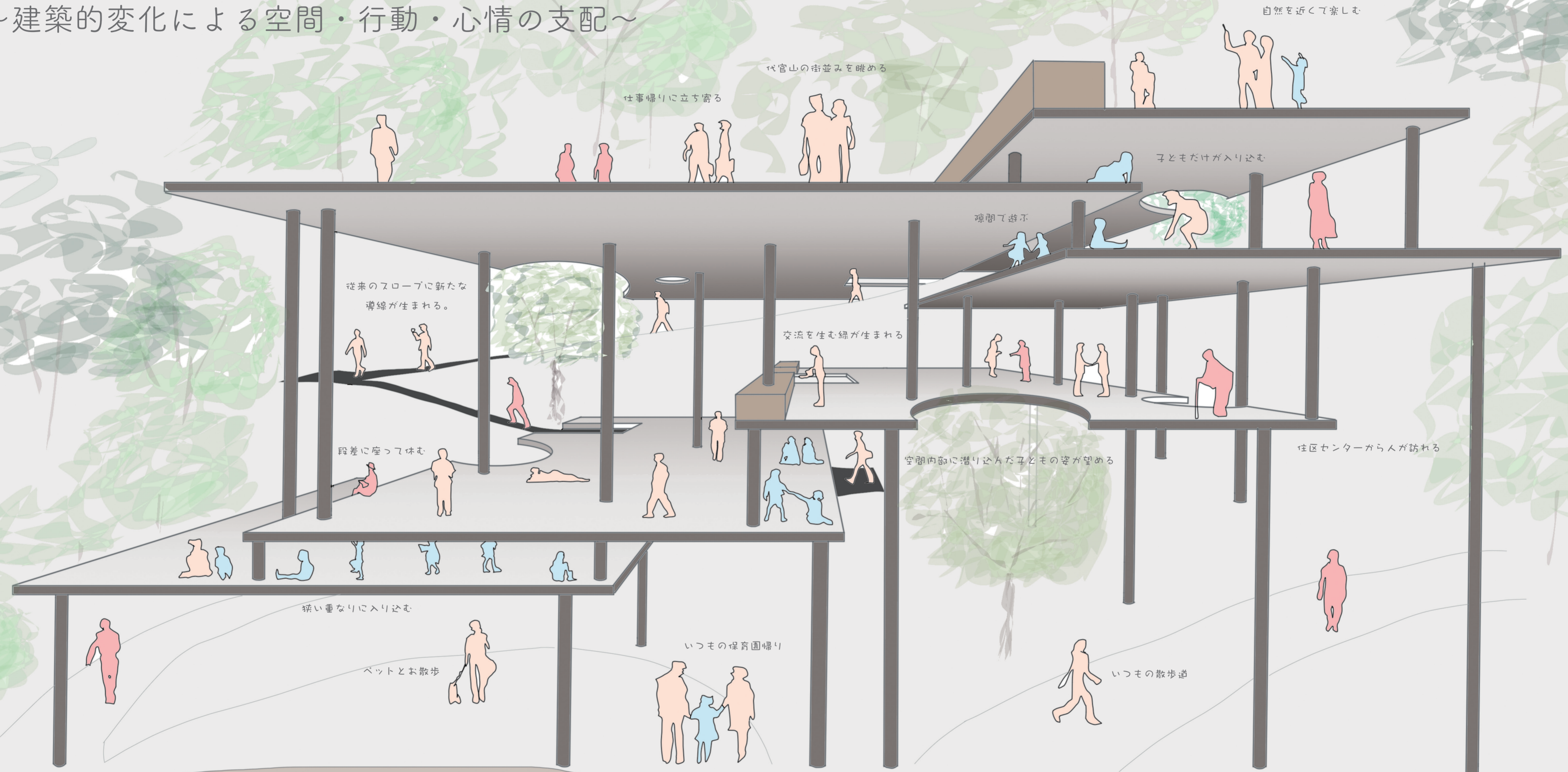


# 重なるの絡まり

～建築的变化による空間・行動・心情の支配～



## 01 Concept

「わたし」と「あなた」「ぼく」と「きみ」

視線の高さが異なることによってGLの見え方は千差万別である。

「わたし」と「わたしのペット」「わたし」と「わたしを囲む木々」

ヒトだけに限らず地球上に生きている動物、植物、全ての生命体によるGLの捉え方は異なる。

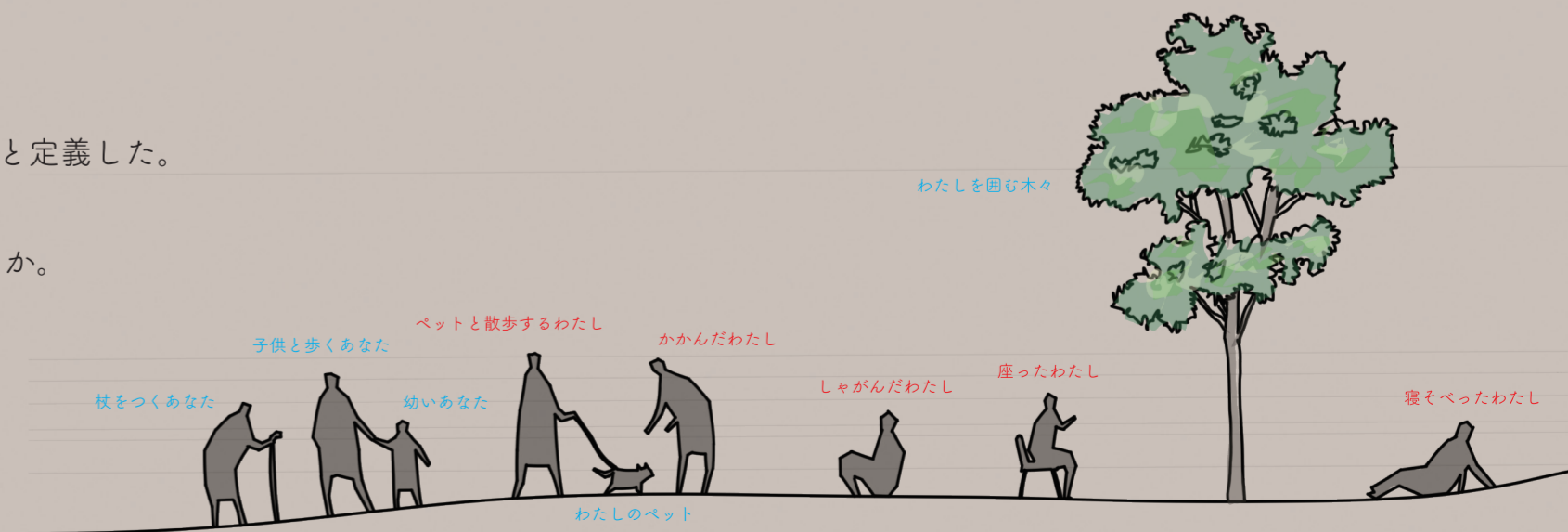
それに加えて「わたし」という一つの要素の中でも、立つ、かがむ、座る、しゃがむ、寝るといった様々な所作によってGLの捉え方が異なる。

そこで私は、GLを

**常に変化し続けること**と定義した。

何が変化をするのか。なぜ変化をするのか。どのように変化をするのか。

この常に変化し続けるという状態を設計へ落とし込む。



## 02 Site



西郷山公園敷地図

地図内の矢印は下記 03 Research によるもの

敷地は東京都目黒区代官山に位置する西郷山公園。  
公園内は北東から南西にかけて標高差 10m の急勾配斜面が広がる。  
斜面にはスロープが、斜面下には保育園と住区センターがある。

公園 保育園 住区センター

この3つのオブジェクトを繋ぎ結ぶ公園内の斜面。

私は斜面の建築的価値と建築的可能性から斜面のコミュニティー施設を創造する。



## 03 Research

### ① ② 現代の代官山の変化

通りに差し込む日光はビル群によって遮られ、  
通り全体が暗く活気がないように感じた。  
敷地までの道中に本来の代官山のイメージとは真逆  
の暗い素っ気ない住宅街が広がっていた。

### ③ ④ 敷地の独自性とその可変性

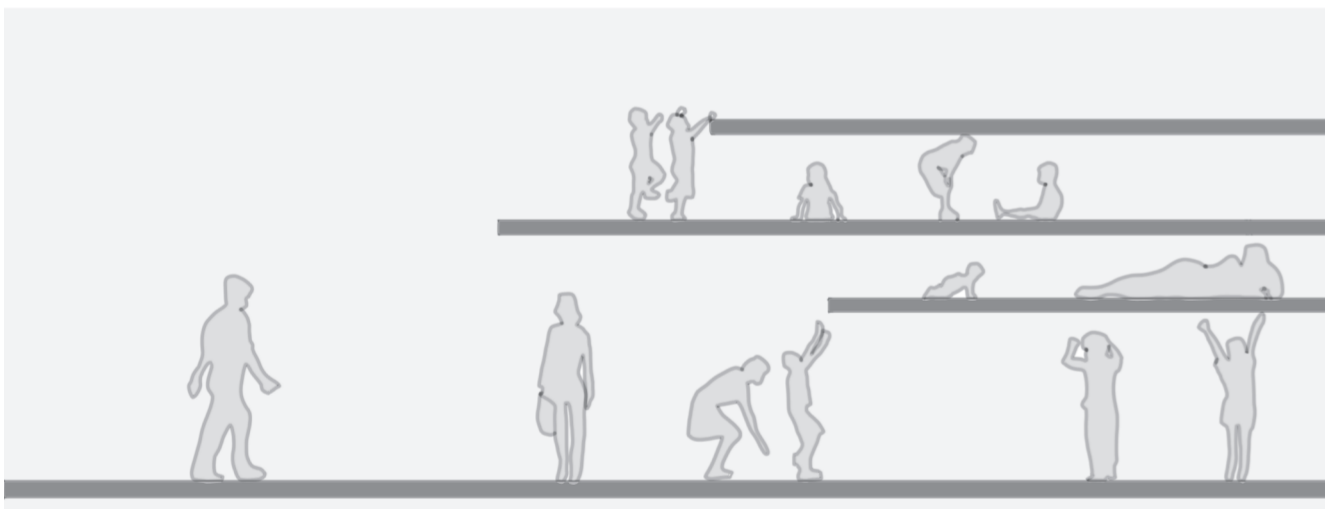
光を遮っていたビル群は消失し視界が開け、  
遠くのビルや住宅街が眺望できるようになった。  
人々は現代の代官山から逃避し光を求め、  
「逃げ場」とし利用し生活しているように感じた。

### ⑤ ⑥ 敷地の持つ課題と未来

傾斜の小道によって、そこを歩く人のモノの  
捉え方は常に変化している。  
園庭は小規模なスペースでフェンスに囲まれ、  
園児たちの行動を制限しているように思えた。

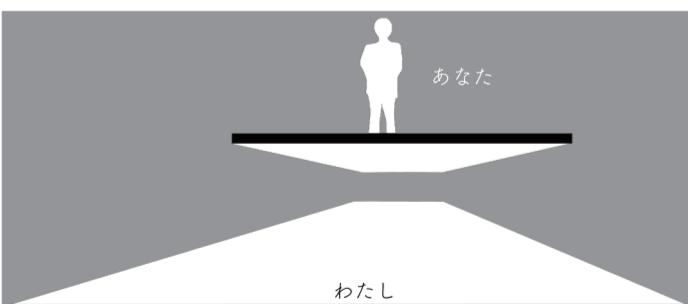
## 04 Proposing

スラブの鉛直変化による内部利用者の違い

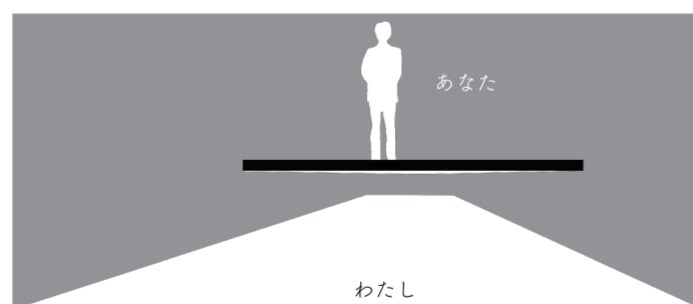


子どもは入れる。でも大人は入れない。  
大人は見える。でも子どもは見えない。  
スラブの鉛直変化によって空間の捉え方は変化する。  
子どもと大人が絡み合うこの敷地に、  
スラブを変化させることで空間を生み出し、  
行動を制御できないだろうか。

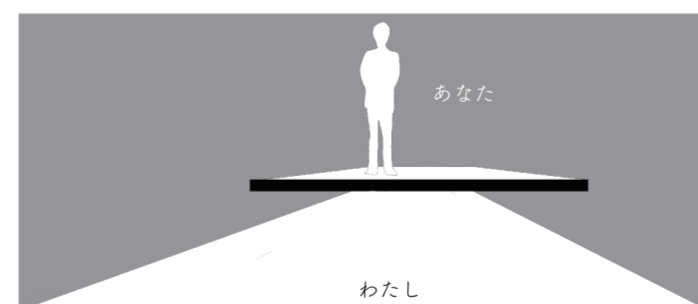
あなたの立つスラブの鉛直変化によるわたしの心情の変化



足を止めずにこのまま歩こう。そんな感情を抱くのではないだろうか。

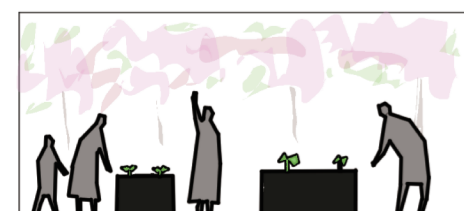


足を止めようか。前に歩こうか。そんな感情を抱くのではないだろうか。

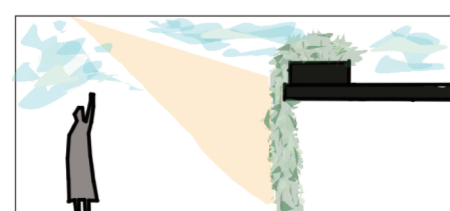


足を止めて上と上だろう。そんな感情を抱くのではないだろうか。

四季の変化に対応する建築そのものの変化



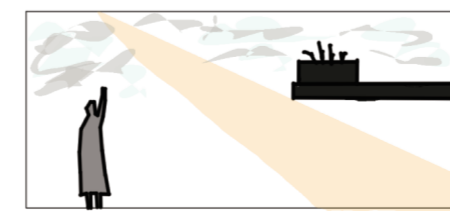
春。地域住民が集まりスラブ上の花壇に種を蒔く



夏。緑のカーテンが形成され日光を遮る。



秋。収穫した野菜の共有しに地域住民が集まる。



冬。緑のカーテンは枯れ日光が降り注ぐ。

## 05 Method

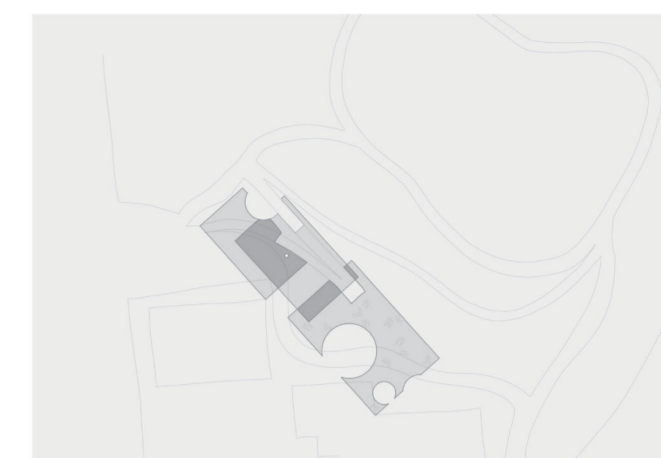


S = 1/1200

① 保育園に向けて斜面からスラブが伸びる



② 東にスラブが重なる  
子どもが重なりに入る



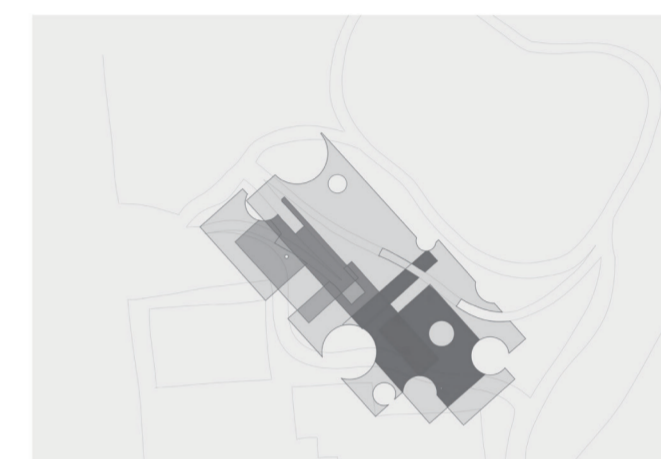
③ スラブが重なる  
住区センターから人が訪れる



④ スラブが重なる  
重なり人が集まる



⑤ 公園からスラブが伸びる  
園内の人々が斜面を訪れる



⑥ もう一つスラブが伸びる  
屋根が生まれ、人々が集まる

